

(別紙③)

議会報告会 「市有施設適正配置計画」について

鶴見義明

報告を担当いたします鶴見です。今回の報告では、佐野市が直面する行政課題であり、課題解決に向け策定された計画について取り上げその概略について申し上げたいと思います。「佐野市市有施設適正配置計画」についてであります。この計画は施設の最適化の実現に向け、統廃合・複合化などの再編や長寿命化といった保全のあり方を示し行動に繋げていくためのものです。本計画の策定については平成28年に市有施設等のあり方に関する基本方針が策定されたのち、平成30年3月に策定されました。

平成26年3月31日時点で、本市が保有する施設は404施設、総延床面積は487,852.91㎡に及びます。そのうち、築30年を経過したものが半数を超えており、人口規模が類似した自治体と比較して、機能が重複する施設を多く保有している状況にあります。現在、保有する施設を同じ規模で更新すると仮定した場合、施設を良好な状態で全て維持するために必要となる更新費用の総額は、今後40年間で2,194.9億円、年間では54.9億円と試算しています。

こうした状況下、少子高齢化の進展による社会保障費の増大や税収の減少により、全ての施設を現在の規模のまま維持することが非常に困難になっています。

一方で、人口減少社会の到来により市民の人口構造が変化することで、市有施設に対する需要も大きく変化することが予想され、市有施設が果たす機能と役割を勘案し、行政サービスのあり方を見直していくことも必要です。ゆえに今後は市有施設の再編や保全について前期・中期・後期の3つの期間ごとに縮減目標を定め、その進捗について毎年度公表をしていくものです。前期計画期間では縮減目標面積を58,000㎡(約11.8%)と設定し、地域住民の方々と合意形成を得ながら、適正な施設配置の実現に努めていくものです。

次に葛生地区について報告させていただきます。

Aグループの施設は、19施設あります。計画ではすべて前期計画であり5年後の平成34年度までには合意形成を図ることとしています。そのうち市営住宅が8か所になります。特に規模の大きいのが会沢住宅43戸、小曾根住宅70戸、石沢住宅37戸で、現入居者数は会沢住宅が\_\_戸、小曾根住宅が\_\_戸、石沢住宅が\_\_戸となっております。市営住宅は他の施設と違い、単なる老朽化や、利用頻度が少ないなどの理由で廃止または譲渡というわけにはいきません。現入居者の大半は高齢者であり、長年にわたってそこで暮らしています。公営住宅の理念として、低所得者に対して安定した住居を安い家賃で供給することにあります。これらの住宅はすべて数千円単位の家賃と思われませんが、民間住宅に転居となると負担も大きいものとなります。計画では入居者と十分交渉を行い廃止時期について検討するとされています。

問題は代替えとなる住居をどのように保障するのかこれからの課題になるのではないかと思います。

また19施設のうち、すでに仙波にありました元ふれあい館は用途廃止としすでに解体済みのものもあり、元葛生給食センターや元会沢浄水場のように既に使われなくなっているものも含まれます。

次にBグループに属する施設は9か所あります。7か所が学校施設、2か所が診療所となっています。学校については、平成34年度開校で小中一貫学校が計画され、それに伴う統合となりますが、今後跡地利用の問題もそれぞれの地域で検討されることになると思います。

診療所は現在氷室と常盤にあります。両方とも施設はすでに耐用年数を過ぎ老朽化しています。これらが統合の対象となっているということは、どちらかの地域から診療所がなくなるということであり地域との協議が必要とされます。

以上簡単ではありますが、市有施設適正配置計画についての報告とさせていただきます。

市有施設適正配置計画について

◆ 施設評価結果 A：廃止・譲渡 B：統合・複合化 C：改修/更新・現状維持

・葛生地区（45施設）

施設名	耐用年数 終了年度	計画 期間	方向性 グループ
葛生あくしプラザ	2044	後期	B
葛生伝承館	2054	後期	C
吉澤記念美術館及び地域交流センター	2051	後期	C
葛生文化センター	2028	前期	C
富士見町集会所	2001	前期	C
会沢地区コミュニティセンター	2025	前期	C
葛生武道館	2017	中期	B
葛生農業者トレーニングセンター	2017	前期	C
中運動公園	2002	前期	C
葛の里香番館トイレ	2016	前期	C
葛生小学校	2020	前期	B
葛生南小学校	2022	前期	B
葛生中学校	2026	前期	B
くずう保育園	2025	前期	C
葛生南こどもクラブ	1990	前期	B
葛生清和荘	2003	前期	A
葛生あくし保健センター	2047	後期	C
葛生隣保事業相談所	2009	前期	C
消防機械器具置場（葛生東一丁目22-1）	2048	後期	C
消防機械器具置場（葛生西三丁目23-1）	2025	前期	C
消防機械器具置場（中町24-1）	2036	中期	C
消防機械器具置場（会沢町25-1）	2027	前期	C
葛生清掃センター	2031	中期	C
園児送迎バス車庫1	2018	前期	C
園児送迎バス車庫2	2021	前期	C
市営バス葛生車庫	2018	前期	A
松の内市営住宅	1977	前期	A
富士見町市営住宅	2001	前期	C
金屋市営住宅	1990	前期	A

施設名	耐用年数 終了年度	計画 期間	方向性 グループ
西原市営住宅	2021	前期	C
小曾根市営住宅	1986	前期	A
会沢市営住宅	2016	前期	A
葛生本町公園	2026	前期	C
松の内公園	2026	前期	C
富士見公園	不明	前期	C
嘉多山公園	2031	前期	C
シルバー人材センター葛生事業所	不明	前期	A
片倉一般住宅	1988	前期	A
松井町一般住宅	1977	前期	A
緑町一般住宅	1973	前期	A
元葛生給食センター	2000	前期	A
葛生浄水場	2020	前期	C
鉢木浄水場	2030	中期	C
元会沢浄水場	2016	前期	A
会沢配水場	2073	後期	C

・常盤地区（19施設）

施設名	耐用年数 終了年度	計画 期間	方向性 グループ
常盤地区公民館	1994	前期	C
元葛生住民センター	2014	前期	A
田名網集落センター	2002	前期	A
上牧集落センター	2002	前期	A
下牧農村生活センター	1997	前期	A
元ふれあい館	2013	前期	A
農林漁家高齢者センター	2009	前期	C
常盤小学校	2013	前期	B
常盤中学校	2032	前期	B

施設名	耐用年数 終了年度	計画 期間	方向性 グループ
ときわ保育園	2026	前期	C
消防機械器具置場（牧町27-1）	2027	前期	C
消防機械器具置場（仙波町26-1）	2025	前期	C
消防機械器具置場（仙波町28-1）	2044	後期	C
石沢市営住宅	1983	前期	A
牧親水公園	不明	前期	C
常盤第1浄水場	2033	中期	C
常盤第2浄水場	2018	前期	C
常盤地区水処理センター	2042	後期	C
国民健康保険常盤診療所	2001	前期	B

・氷室地区（14施設）

施設名	耐用年数 終了年度	計画 期間	方向性 グループ
氷室地区公民館	2010	前期	C
菜蟲館	2022	前期	C
秋山生活改善センター	2002	前期	A
あきやま学寮	2017	前期	C
古代生活体験村	2014	前期	C
生産物直売所	2009	前期	C
ウッドランド森沢	2014	前期	C
体験館	2021	前期	C
氷室小学校	2022	前期	B
消防機械器具置場（柿平町29-1）	2041	後期	C
消防機械器具置場（水木町30-1）	2036	中期	C
消防機械器具置場（秋山町31-1）	2033	中期	C
元氷室第2浄水場	2016	前期	C
国民健康保険氷室診療所	2004	前期	B

## 葛生・常盤中学校区小中一貫校 概要 説明原稿

- ・葛生・常盤中学校区小中一貫校概要について説明します。
- ・開校時期は、平成34年、2022年の4月です。
- ・学校の種類は、義務教育学校です。
- ・義務教育学校といいますのは、平成28年の学校教育法の改正で、小学校でもなく中学校でもない、新たな学校の形として定められたものです。
- ・設置場所は、現在の葛生中学校の敷地に設置します。
- ・開校時の学校の規模は、1年生～9年生で約350人、14クラスの想定です。
- ・教職員は、校長1人、教頭2人で、合計で30人の見込みです。
- ・開校までの検討体制として、運営（ソフト）面は、開校準備委員会を組織して検討します。
- ・詳しくは、次のページで説明します。
- ・施設整備（ハード）面は、主に市が中心となって進めます。
- ・次のページ、葛生・常盤中学校区小中一貫校検討体制（案）について説明します。
- ・まず、左上から、市、教育委員会、全体を統括する推進本部というものがありますが、そのもとに、開校準備委員会という組織を立ち上げます。
- ・開校準備委員会のメンバー構成は、町会長連合会の理事の方、学校のPTA会長、学校長、教育委員会で構成して21人の想定です。
- ・開校準備委員会の主な取り組みは、各部会からの提出案件の検討、もしくは承認、各部会運営への協力、運営状況把握、委員会の全体統括などです。

・また、開校準備委員会のもとに、各専門部会を設置します。総務部会、通学部会、PTA部会、学校支援部会の4つを立ち上げます。

・総務部会は、各小学校区の町会長の代表の方、各学校PTAから2名ずつ、各学校の教職員の方から1名ずつ、教育委員会から2名、合計24名の想定で、学校の名称や校旗、校歌、校章などを検討します。

・通学部会は、PTA、教職員、教育委員会で構成し、19名の想定で、スクールバスのバス停や通学路、通学方法などを検討します。

・PTA部会は、PTA、教職員、教育委員会で構成し、19名の想定で、会則やPTA役員の選出方法などを検討します。

・学校支援部会は、町会長の代表、PTA、育成会、教職員、教育委員会で構成し、27名の想定で、学校と地域の連携のあり方や地域支援組織などを検討します。

・その下の学校運営部会は、開校準備委員会とは別に、各学校長6名で構成して、学校運営に関する様々な事項を検討します。

・学校運営部会の下には、教育課程 分科会、施設設備 分科会などを組織して、学校運営部会の下部組織として、各学校の教頭先生や教務主任の先生などで、さらに細かな日課表や必要備品などを検討します。

・さらに、学校運営部会の裁量によって、いくつか分科会が設置されることもあります。

・説明は、以上です。

## 葛生・常盤中学校区小中一貫校について

- 1 開校時期 … 平成34(2022)年4月
- 2 学校の種類 … 義務教育学校
- 3 設置場所 … 現葛生中学校の敷地内に設置

### 4 規模(開校時予測)

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計
人数	26	28	41	34	42	40	50	42	49	352
学級数	1	1	2	1	2	1	2	2	2	14

### 5 教職員数(正規)(開校時想定)

役職	人数
校長	1
教頭	2
教員	23
養護教諭	2
事務職員	2
合計	30

### 6 検討体制

#### (1)運営(ソフト)

①開校準備委員会…専門部会での決定事項の検討、承認

#### ②専門部会

- ・総務部会(校名、校歌、校章、開校記念事業等の検討)
- ・通学部会(通学路、通学方法、スクールバス、バスの停留所等の検討)
- ・PTA部会(会則、会費、役員選出方法等の検討)
- ・学校支援部会(地域連携、地域支援組織等の検討)

③学校運営部会…学校の運営に関する事項を検討

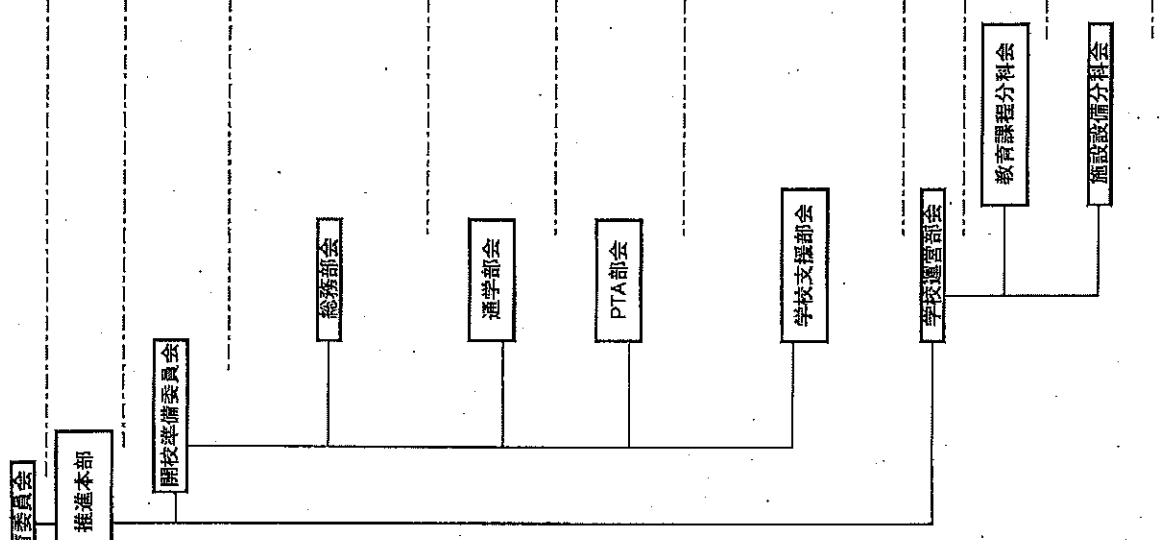
(教育理念、目標、日課表、学校行事、制服等)

#### (2)施設整備(ハード)

①校舎、体育館、プール等の整備

葛生・常盤中学校区小中一貫校検討体制（案）

組織	構成	人数	主な取組み
市教委	教育長、部長、関係課長・係長	16人	全体総括
地域PTA学校市教委	町会長・連合会理事 各学校PTA会長 各学校長 市教委	4人 6人 8人 5人	各部会からの提出案件の検討もしくは承認 各部会運営への協力及び運営状況把握 委員会の全体総括
地域PTA学校市教委	各小学校区代表町会長（推薦） 各学校PTA推薦（2人×6校） 各学校教職員推薦（1人×6校） 教育総務課 学校教育課職員	4人 12人 6人 2人	学校名称 校旗、校歌、校章 開校日及び記念事業 シンボルカラー など
PTA学校市教委	各学校PTA推薦（2人×6校） 各学校教職員推薦（1人×6校） 学校教育課職員	12人 6人 1人	スクールバス 通学路及び通学方法 通学安全対策 通学班編成 など
PTA学校市教委	各学校PTA推薦（2人×6校） 各学校教職員推薦（1人×6校） 教育センター職員	12人 6人 1人	会則 役員選出方法 PTA会費 事業計画 など
地域PTA育成会学校市教委	各小学校区代表町会長（推薦） 各学校PTA推薦（2人×6校） 各地区子供会育成会推薦（1人×4校） 各学校教職員推薦（1人×6校） 学校教育課職員	4人 12人 4人 6人 1人	学校と地域の連携のあり方 地域支援組織 地域教育コーディネーター 学校支援ボランティア 地域行事 など
学校	各学校長	6人	学校運営に関する事項の方針検討・協議及び運営部会全体総括 分科会検討事項の審議及び承認、教育課程の作成 など
学校	各学校教職員推薦（2人×6校）	12人	日課表、年間行事、各種活動などの教育課程全般に関する素案検討 など
学校市教委	各学校教職員推薦（2人×6校） 学校教育課 学校給食課職員	12人 2人	必要備品、新規購入備品、不用品等の調査・検討 学校図書、給食関係備品等の調査・検討 など



平成29年度 葛生・常盤中学校区小中一貫校 検討経過

№	日時・場所	会議名 等	出席者 等	会議内容 等
1	9/20(水) 19:00～ 葛生あくとプラザ	町会・PTA 代表者等説明会	メンバー：各地区町会長、PTA 会長 学校長 オブザーバー：市議、市教育委員	・葛生・常盤中学校区の入学者数などの現状 や今後の小中一貫校の進め方について事務局 より説明。
2	10/17(火) 19:00～ 水室小学校	地域説明会	地域の方、保護者	・全体計画や設置場所について市の考えなど を説明。
3	10/18(水) 19:00～ 常盤地区公民館			
4	10/19(木) 19:00～ 常盤中学校			
5	10/20(金) 19:00～ 葛生南小学校			
6	10/23(月) 19:00～ 葛生地区公民館			
7	10/24(火) 19:00～ 葛生中学校			
8	10/27(金) 19:00～ 常盤小学校			
9	11/1(水) 19:30～ 水室小学校	水室小学校 PTA 意見交換会	水室小学校保護者	・小中一貫校について意見交換。
10	11/8(水) 19:00～ 葛生あくとプラザ	葛生・常盤中学校区小中一貫校 地域代表者懇談会	メンバー：各地区町会長、PTA 会長 学校長 オブザーバー：市議、市教育委員	・①地域説明会の質疑回答、②佐野市提案の 葛生・常盤中学校区小中一貫校について懇談。 ・方向性を出すのではなく、意見交換をする ことを目的に実施。
11	11/28(火) 19:00～ 葛生あくとプラザ	第1回葛生・常盤中学校区 PTA 正副会長意見交換会	各小中学校の PTA 正副会長	・テーマ①小中一貫校設置②学校設置場所と して意見交換会を実施。
12	11/29(水) 常盤保育園	常盤保育園へ葛生・常盤中学校 区小中一貫校	—	・保育園へ地域説明会と同じ内容を説明。
13	11/30(木) 葛生保育園	葛生保育園へ葛生・常盤中学校 区小中一貫校	—	・保育園へ地域説明会と同じ内容を説明。
14	12/1(金) 14:50～ 常盤中学校	常盤中学校保護者説明会	常盤中学校保護者	・地域説明会と同じ内容を説明。
15	12/4(月) 葛生幼稚園	葛生幼稚園へ葛生・常盤中学校 区小中一貫校	—	・幼稚園へ地域説明会と同じ内容を説明。
16	12/13(水) 15:20～ 葛生中学校	葛生中学校保護者説明会	葛生中学校保護者	・地域説明会と同じ内容を説明。
17	12/15(金) 14:30～ 葛生南小学校	葛生南小学校保護者説明会	葛生南小学校保護者	・地域説明会と同じ内容を説明。
18	12/20(水) 14:30～ 葛生小学校	葛生小学校保護者説明会	葛生小学校保護者	・地域説明会と同じ内容を説明。
19	12/26(火) 19:00～ 常盤地区公民館	第2回葛生・常盤中学校区 PTA 正副会長意見交換会	各小中学校の PTA 正副会長	・テーマ①小中一貫校設置②学校設置場所と して意見交換会を実施。



市内で協議し「小中一貫校設置」及び「学校設置場所」について方針を決定。



### 第3回市議会報告会 読み原稿

①あいさつ

山菅直己

葛生地区における中山間地域の活性化について

始めに行政が取り組まれている中山間地域での事業について資料を提出します。(各担当部局からの抜粋です。)

鶴見議員から(市有施設適正配置計画)

高橋議員から(葛生・常盤中学校区小中一貫校)

(葛生地区における鳥獣被害対策)について

報告があります。関連している所もあると考えますが活性化について報告します。

## 1. 観光の視点からの活性化を図る

- ・ 自然の豊かさを紹介する
- ・ 葛生から他市町へのアクセス道路を紹介し流れを作る

仙波町～栃木市鍋山町 県道仙波鍋山線

柿平町越沢～田沼地区白岩町 林道白岩・柿平線

秋山町出原沢～田沼地区作原町 林道牛の沢・出原線

秋山町(玉雲寺)～栃木市粟野町上粕尾～日光市足尾町まで

市道木浦原・大荷場線～大荷場林道～鹿沼足尾線で足尾町まで

- ・ 公共施設を活用して活性化を図る

秋山町 P 4 あきやま学寮

P 4 ウッドランド森沢

古代体験村

体験館

・ 指定管理施設

活用を  
宿泊型・学習体験など  
のカリキュラムを増  
やしていただく。

水木町 フィッシングセンター(休止中)

柿平町 菜蟲館(一部使用のみ)

牧町 親水公園

仙波町 農林業家高齢者センター(そば)

地域住民との協働した取り組みを推進する。

P 1 ・ 廃校(閉校)となる小・中学校の観光事業などの利用として

(廃校 リニューアル)

塩谷町	熊ノ木小学校 (H11年3月閉校)	学習・宿泊型体験学習施設
大田原市	蜂巢小学校 (H25年3月閉校)	社会施設・障害者就労支援施設
那珂川町	馬頭東中学校 (H20年3月閉校)	製材所・バイオマス発電所 (うなぎ養殖・マンゴー栽培など)
田沼町	野上小学校 (H25年3月閉校)	無農薬キクラゲの生産加工販売 地域活動の拠点施設

## 2. 空家と農地を活用しての活性化を図る

現況は・・・。

P 7                    27年の国勢調査データより

佐野市全体            総面積            35,604 h a

耕作面積            4,180 h a

		葛生地区	常盤地区	氷室地区
人口		6200 人	2464 人	813 人
総面積		2,286 h a	2,687 h a	4,195 h a
経営耕地面積		57.69 h a	59.85 h a	30.98 h a
耕作放棄地面積		9.72 h a	17.05 h a	17.91 h a
耕作放棄地 の割合	H17年	12.1%	13.0%	28.6%
	H22年	18.6%	17.7%	28.6%
	H27年	14.4%	22.2%	36.6%

中山間地域全体に比べ、耕作放棄地の割合が高い(葛生)、非常に高い(常盤・氷室)、土地改良区でさえ高齢者不足により、営農集団や個人の農業者に耕作してもらっている現状です。耕作者の高齢化は進んでいます。市民の協力が必要であります。

耕作放棄地の拡大を止めるために中山間地域の空家と農地をセットにして貸し出しては。(定住・移住につなげる)

現在

・あきやま有機農村未来塾の活動 H27年4月～活動

①酒米 田植え 日本酒「あきやま」

②お茶

③山ぶどうからワイン⇒土地活用

ぶどう団地 漆(うるし)の木を植林 98%が輸入されている 漆畑を徳島県、茨城県、岩手県、京都府福知山市 1本200円～800円 採取まで10年
---

・Iターン 関塚農園 (関塚学さん)

P1 ・中山間地域おこし協力隊員(佐野市第1号)(平石栄子さん)

P7 水道事業に進める H29年4月時点

秋山地区では上秋山63戸 下秋山69戸 132世帯

現在は地下水や沢水を利用している状況であります。

市の事業費は本管施工で約14億円、引き込みするのに自己負担が約40万円～50万円と説明しています。

水道未普及地域での生活は不便であり、市の重点政策に定住・移住の推進とあります。早々に解消する取り組みが必要と考えます。

最後に中山間地域の現況を佐野市全体で共有し、活性化の取り組みには行政の大胆な支援と市民全体の理解をいただき、地域住民の協力・努力なければならないと考えます。

# 葛生地区における中山間地域の活性化について

## ●葛生地区の活性化等に関連する事業(平成 30 年度) 抜粋

(農山村振興課)

- ・中山間地域おこし協力隊員設置事業(3,229 千円)

秋山地区に地域おこし協力隊員を設置し地域団体と連携を図りながら各種事業を展開する。

現在の隊員の任期満了(H27.7~H30.6)に伴い、平成 30 年 7 月以降において新たな隊員を設置する。

- ・林道秋山線開設事業(8,908 千円)

林業の振興及び中山間地域活性化のため、県が事業主体となる林道秋山線開設事業に対して地元負担金(事業費 17.7%)を賄う。

(学校適正配置推進課)

- ・葛生・常盤中学校区小中一貫校整備事業(25,200 千円)

(公民館管理課)

- ・葛生文化センター改修事業(75,058 千円)

葛生図書館跡の有効活用を図り、展示室や作業室、倉庫等を整備するための改修工事を行う。

(交通生活課)

- ・有償バス葛生車庫トイレ整備事業(5,747 千円)

現在の汲み取り式のトイレから身体障害者対応の水洗トイレへ建て替えを行うことにより、誰もが利用しやすい環境となる。

(保育課)

- ・私立幼稚園に対する事業(葛生幼稚園分)(983 千円)

保育料及び入園料の減額や施設整備及び教員研修、栃木県の定める子育て推進事業の実施に対する各事業への補助。

- ・公立保育園における運営に係る費用(くずう保育園・ときわ保育園分)  
人件費(臨時職員分) 25,452 千円

全体の費用としては、約 160,000 千円  
運営費 11,746 千円

くずう保育園 保育士 16 名 調理員 3 名  
ときわ保育園 保育士 10 名 調理員 2 名

くずう保育園 園児数 70 名 定員数 120 名  
ときわ保育園 園児数 31 名 定員数 80 名

(こども課)

・放課後児童健全育成事業(こどもクラブ)の概要(13,620 千円)

区域内のこどもクラブ

葛生こどもクラブ 余裕教室 17 人

葛生南こどもクラブ 単独建物 18 人

常盤こどもクラブ 余裕教室 17 人

※氷室小学校区については、想定される入所児童数が年間を通じて 10 人以上となることを見込めないため、こどもクラブを設置しない。

・対象クラブの事業費の概算(13,620 千円)

・こどもクラブ入所費用

おやつ代・教材費 月額 3,000 円

保育料 月額 2,000 円

(生活保護世帯、ひとり親家庭で市民税非課税の者、世帯全員の市民税が非課税の世帯は保育料の減免がある。)

(医療保険課)

・国民健康保険常盤診療所運営に関する費用 33,521 千円

・国民健康保険氷室診療所運営に関する費用 39,117 千円

※予算額については、医師及び臨時職員の人件費は含まれますが、正規職員の人件費は含まれていません。

国民健康保健診療所の適正な管理運営により、地域医療を保持し、市民の生命と健康を守ります。

(いきいき高齢課)

葛生地区に特化した事業ではありませんが、葛生地区で実施している事業をご紹介します



・高齢者生きがい活動支援通所事業(2,844 千円)

目的 家に閉じこもりがちな高齢者に対し、通所の間を設けて各種サービスを提供することにより、社会的孤立感の解消、自立生活の助長及び要介護状態になることの予防を図る。

対象者 一人暮らし及び高齢者のみの世帯に属する方で、概ね 60 歳以上の介護を必要としない方

実地場所 葛生あくど保健センター、氷室地区公民館、常盤地区公民館  
会沢コミュニティーセンター(葛生地区実施場所のみ)

内容 健康づくりや介護予防に関する教養講座、リズム体操や笑いヨガ等のスポーツ活動、創作活動、書道やお茶を楽しむ趣味活動等

・佐野市ハツラツ元気体操

何歳になっても高齢者が元気ではつらつと生活できることを願い、ハツラツ元気体操の普及に取り組んでおります。

(健康増進課)

・健康サポートさの活動推進事業

登録数 葛生地区 1 支部 39 人の健康サポーター登録

活動内容 健康づくりに関する調理実習・運動等の各種健康教室を、自主的に企画し、地域住民に周知を行い、実施している。

平成 29 年度葛生支部活動

運動教室・調理実習・ウォーキング等 8 事業 195 人参加

平成 30 年度も同様の事業を計画中

支部活動費 平成 30 年度は各 1 支部 5 万円の活動費の支給を予定

(観光立市推進課)

・栃木 DESTINATION キャンペーン促進事業

本年 4 月 1 日から 6 月 30 日まで開催しており、葛生地区では次の施設・企画等を DESTINATION キャンペーンの対象として事業を行いました。

・葛生伝承館・吉澤記念美術館・葛生化石館・栃木県石灰石工業会館・くずうフェスタ(花火大会)

・あきやま学寮等指定管理事業(12,854 千円)

自然を満喫できる施設を開設することにより、観光客の増加を図るとともに、地元農林家の就労機会の増加と所得向上を目指す。

・観光施設改修事業

老朽化した観光施設の改修を行うことで、佐野市のイメージアップや観光客の利便性の向上を図り、観光誘客へと結びつけることを目指します。

あきやま学寮多目的棟改修工事、ウッドランド森沢改修工事

(道路河川課)

・急傾斜地崩壊対策参画事業

事業内容

平成 30 年度の事業予定箇所 山根 A(秋山町)あきやま学寮の西  
礒川 A(水木町)氷室小学校の東

事業費 平成 30 年度予算額 13,900 千円

・東部幹線整備促進事業

栃木県が施行する東部幹線の促進を図るため、現在市道となっている築地四十八願線(未供用)上に残っている、鉄道施設の撤去及び土地開発基金により先行取得した用地の買戻しを行う。

事業内容 平成 30 年度 用地買戻し 6,540 m<sup>2</sup>

事業費 平成 30 年度予算額 13,068 千円

平成 30 年度をもって、旧鉄道敷地の買戻しは完了します。

・市道木浦原大荷場線道路改良事業

本路線は、沿線住民の生活道路であると同時に、周辺に点在する観光資源へのアクセス道路としても利用されており、老朽化した玉雲寺橋の改修と前後の狭隘区間を改良することにより利用者の安全を確保する。

事業内容 平成 30 年度 橋梁下部工・護岸工・旧橋撤去工・仮設道路工

事業費 平成 30 年度 24,000 千円

・市道維持補修事業

事業内容 平成 30 年度工事予定箇所 市道西山箕輪線・舗装修繕工事(会沢町)

事業費 平成 30 年度予算額 10,000 千円

・橋りょう長寿命化事業

長寿命化計画や保守点検の結果を基に、予防的な修繕等を行い地域の安全性・信頼性を確保する。

事業内容 平成 30 年度工事予定箇所 小屋橋・橋りょう補修工事(小屋町)

事業費 平成 30 年度予算額 60,000 千円

・河川施設管理事業

河川公園内の芝生や樹木、トイレの管理、除草を定期的に行い良好な公園利用を図る

事業内容 平成 30 年度 牧親水公園の維持管理 582 千円

(空き家対策室)

・空き家活用推進事業

空き家の利活用を促進するための空き家バンクを運営し、ホームページ等効果的な情報発信を行い、空き家の有効活用を図る。

事業内容

空き家バンク登録物件の購入者が、購入物件を改修する場合に、改修費の一部を助成する。耐震改修を行う場合は、加算して助成する。

改修費補助 改修工事費の 1/2、上限 50 万円

耐震改修補助 改修工事費の 1/2、上限 50 万円

対象件数 20 件

事業費 平成 30 年度予算額 空き家バンクの運営等 210 千円

空き家改修費補助金 10,000 千円

平成 29 年度の空き家バンクへの登録 24 件(うち葛生地区 5 件)

・特定空家等除去促進事業

特定空家等と判断した空家等の解体工事の一部を助成することにより、周辺に悪影響を与えている特定空家等の除去を促進する。

事業内容

特定空家等の解体工事費の一部を助成する。

解体費補助 解体工事費の 1/2、上限 50 万円

対象件数 20 件

・若者移住・定住促進事業(平成 30 年度から総合戦略推進室へ移管)

事業内容

市外に居住する若者夫婦が市内に住居を取得し、定住を図る場合に補助金を交付する。

基本額 10 万円

加算額 子育て世帯の加算額 子ども一人当たり 10 万円

三世帯同居の場合 10 万円

三世帯近居の場合 5 万円

市内に勤務している場合 5 万円

市内で起業している(する)場合 10 万円

市内業者を利用し、新築した場合 5 万円

事業費 平成 30 年度予算額 補助金 7,000 千円  
 平成 29 年度の実績 補助金による転入者数 81 人(うち葛生地区 0 人)

(参考資料) 平成 27 年 国勢調査データより  
 佐野市全体 総面積 35,604ha  
 耕作面積 4,180ha

		葛生地区	常盤地区	氷室地区
人口		6,200 人	2,464 人	813 人
総面積		2,286ha	2,687ha	4,195ha
経営耕地面積		57.69ha	59.85ha	30.98ha
耕作放棄地面積		9.72ha	17.05ha	17.91ha
耕作放棄地の割合	H17 年	12.1%	13.0%	28.6%
	H22 年	18.6%	17.7%	28.6%
	H27 年	14.4%	22.2%	36.6%

中山間地域全体に比べ、耕作放棄地の割合が高い(葛生)、非常に高い(常盤・氷室)、土地改良区でさえ高齢者不足により、営農集団や個人の農業者に耕作してもらっている現状です。耕作者の高齢化は進んでおり、市民の協力が必要です。

(水道局)

・水道未普及地域(主に秋山地区)について

これまで上水道整備に向けた取り組みを行ってきましたが、地区内に有効な水源がないことや補助金等がないことから、現在の財政状況では上水道を整備することは非常に難しいということで、衛生的な水を確保するために、市として上水道以外の方法を検討している状況です。

・常盤地区農業集落排水工事について

常盤地区の公共下水道への統合については、佐野西部地区の完了後に順次、公共下水道への接続工事に着手し、平成 34 年度末までに工事を完了させ、平成 35 年度から公共下水道として供用開始する予定で進めています。

(行政経営課)

葛生行政センター内に災害用の備蓄

アルファーマ	30 年度	1400 食	合計 3300 食に
飲料水	30 年度	9600	合計 27600 に

分類項目	内 容
有害捕獲状況	<p>平成29年度の佐野市全域の有害捕獲頭数は、イノシシが825頭を駆除しており、過去10年間で2番目に少ない頭数となりました。</p> <p>一方、ニホンジカは、1,050頭を捕獲駆除し、過去最高となっています。</p> <p>平成29年度の葛生地区での有害捕獲頭数は、イノシシが190頭(氷室17頭、常盤90頭、葛生83頭)市全体の23%、ニホンジカが193頭(氷室18頭、常盤61頭、葛生114頭)市全体の18%となっています。</p>
獣類の生息域	<p>イノシシ、シカの生息区域については、葛生地区の市街地、田沼地区の市街地及び南部地区を除く全域に生息が確認されており、佐野地区では、赤見地区、吾妻地区の全域と堀米、旗川、犬伏地区の一部で生息が確認されています。</p> <p>ハクビシン、アライグマ、タヌキ等の小型の野生獣については、目撃報告や市職員による痕跡確認等により、山間地域の集落から中心市街地まで全域で生息し、繁殖しているものと推測しており、野生獣の生息域は、著しく拡大しています。</p>
被害状況	<p>被害状況については、農作物被害アンケート調査が実施されており、平成29年度については、イノシシの出没による捕獲頭数が激減したことにより、水稻被害等が激減し、市全体被害額は減少しました。</p> <p>加害獣別では、イノシシによる被害額が一番多く、次にニホンザル、次にニホンジカの順となっています。</p> <p>平成29年度のアンケート調査による市全体の被害総額は、10,200千円で葛生地区での被害については、総額、約2,380千円なっております。地域別では、氷室地区が80千円、常盤地区750千円、葛生地区が1,550千円なっております。氷室地区ではサル被害が多発しており、被害額のほとんどがニホンザルによる原因となっております。常盤、葛生地区では、例年通りイノシシ、シカによる被害が被害総額の約8割を占めております。</p>

<p>獣害対策 (佐野市有害鳥獣 被害対策協議会)</p>	<p>被害軽減のための対策について市では、佐野市有害鳥獣被害対策協議会に補助金を支出し、協議会主体による電気柵や侵入防止柵等の支援、助成を実施しております。</p> <p>対策協議会では、被害地の管理として、野生獣から農作物を守るため、電気柵の購入費4割を助成しております。設置台数は、平成19年度からの合計で2,440台を助成し、総延長で約620km、総受益圃場は延べ約540haとなっております。</p> <p>被害地へのシノシシ・シカの侵入を防ぐため、国庫補助を活用し、侵入防止柵を支給しております。</p> <p>平成19年度からの総支給延長は、約116km支給しております。</p> <p>葛生地区では、中、あくと、正雲寺から上仙波、下牧から柿平、下秋山に支給した侵入防止柵の総延長は、46,500mで各地区でのイノシシ、シカによる農作物被害は減少しております</p>
<p>(佐野市事業主体)</p>	<p>市では、有害鳥獣による被害軽減を図るため、猟友会安蘇支部へ捕獲駆除を委託しています。</p> <p>駆除に係る捕獲活動経費を市及び国補助金により、支援しております。</p> <p>市の捕獲活動経費は、一頭当たり5,000円、国の捕獲活動経費は、一頭当たり8,000円を支援しております。さらに今年度より県の捕獲強化奨励事業として一頭当たり2,000円が支援されます。</p> <p>また、国庫補助を活用し、捕獲用箱わなを作成しており、作成した箱罾は猟友会に貸し出しております。</p> <p>また、ハクビシン・アライグマ駆除のため、市(農山村振興課)への捕獲許可申請時に捕獲用箱罾を貸し出しております。</p>